

## 令和5年度第2回平塚市いじめ問題対策連絡協議会 会議録

**日時** 令和6年2月26日(月) 午前10時00分～午前11時00分

**場所** 平塚市役所本館302会議室

**出席者** 【委員】平塚市小学校長会、平塚市立中学校長会、平塚児童相談所、横浜地方法務局西湘二宮支局、平塚警察署生活安全課、神奈川県警少年相談・保護センター湘南方面事務所、平塚警察署少年補導員連絡会、平塚市PTA連絡協議会、こども家庭課、青少年課青少年相談室、子ども教育相談センター  
【事務局】教育指導課

### 1 開会

### 2 あいさつ

### 3 協議

#### (1) 平塚市におけるいじめの実態について

○事務局から、「令和4年度神奈川県児童・生徒の問題行動・不登校等調査」からいじめ、不登校に関する実態を説明し、出席者の質問、感想をうかがう。

<平塚市PTA連絡協議会>

この資料の扱いについて。共有してよい範囲や公表予定があれば教えてほしい。

<事務局>

共有して構わない。この会議の他に、教育委員会定例会での報告、校長会、教頭会での報告は済ませており、それを以て公表としている。

<平塚市PTA連絡協議会>

いじめ発見のきっかけについて、アンケート調査などの取組による発見の件数が多く、効果は大きいと読み取ったが、このアンケート調査について、市の共通の実施方法や内容を提示しているのか。それとも、学校独自のものなのか。

<事務局>

基本的なアンケートの回数や内容は市の方から学校に依頼しているが、細かな内容については、各学校で検討していただき実施している。

<平塚市PTA連絡協議会>

内容は学校ということで、年間どのくらいの回数行われているのか。

<事務局>

定期的なアンケート調査の実施を「いじめ防止基本方針」の中で示しており、学校が実情に応じて複数回実施している。

#### (2) 「令和5年度平塚市いじめ問題対策調査会」報告について

○事務局から、平塚市いじめ問題対策調査会から提言された再発防止策の実施について説明する。

#### (3) いじめ問題等に係る関係機関の取組や情報について

<平塚市小学校長会>

小学校でも、多くのいじめや暴力行為がある。アンケート調査は、子どもが生活を振り返るよい機会になっている。自分自身や友達、家庭を含めた自分の生活を振り返ってもらい、調査を通じて、教職員が困り感をもつ子どもを把握して様子を聴き、その子の気持ちに寄り添いながら対応している。子どもたちが学校生活や生活全体を整えていけたらよい。本校でも多くの課題が出てくるが、一つ一つ丁寧に対応している。

<平塚市立中学校長会>

学校による差はあるが、中学校でも6から8回程度のアンケート調査を実施している。学校生活の様子を聞いて、即日、学年主任まで報告し、複数の目で内容確認をしている。案件の中で多いのが、中学校1年生のSNS関係である。LINEやXで、自分のことが言われているのではないかという不安を抱いたり、大人が分からないところで仲間から外したりする状況についての相談が多くを占め

ている。このような状況の中で、やはり保護者との協力体制の確立が大切になる。学校の時間外で起きている内容が多いが、子どもたちがよりよい人間関係を作っていくために先生方が動く現状がある。いじめを早期に発見して、子どもたちの気持ちの中の拠り所として学校が安心して生活できる場所になれるように努めている。

#### <平塚児童相談所>

児童相談所では、今年度4月からいじめを主とした相談はない。いじめの相談ではないが、話を聞いている中で、子どもから学校で嫌な出来事があると話題にあがることはある。家庭で安心して生活できていない子どもが、学校に長期間行けていなかったり登校渋りがあったりする。子どもがその年齢にあった適切な場所に通えていない状況が家庭内の葛藤にもつながっている。中には一時保護になる子どももいるので、学校にどのようにつなげていくかが課題である。

#### <横浜地方法務局西湘二宮支局>

今年度の8月23日から8月29日まで実施した、「人権相談強化週間」の結果についてお伝えする。今年度は、相談電話だけでなくLINEによる人権相談も行った。LINEを取り入れたことにより、相談件数の大幅な増加があった。電話では保護者からの相談が多く、LINEでは子ども本人からの相談が多かった。電話での相談は体罰が多く、LINEではいじめが一番多い相談内容となった。「人権相談強化週間」を知った理由としては、インターネット関連が33.3%と最も多い。LINEを通じた子どもからの相談が多いことを踏まえ、今後もSNSを利用した周知活動に取り組んでいきたい。小学校低学年からの相談が少ないので、周知媒体として図書館や児童館等、夏休みに小学生が利用されると思われる場所へのポスター掲示が有効と考えられるので続けていきたい。

#### <平塚警察署生活安全課>

警察では、いじめに特化した取組は特にない。警察は、親からの相談に応じたり、学校の中でのトラブルがあった際は、学校からの通報に応じたりする。また必要に応じて関係者に、警察から指導する。先ほど学校内での対教師暴力や生徒間暴力が増加傾向にあるという話があったが、学校内で先生の指導で手に負えない場合や、保護者の方からも子どもの面倒が見られない場合等、警察からの指導をすることができる。ぜひ学校警察連携制度を使って連絡してほしい。

#### <神奈川県警少年相談・保護センター湘南方面事務所>

いじめや暴力の認知が増えているという報告があったが、我々の相談業務も増えている。県下でもいじめに限らず相談受理件数が増えている。相談員は3名おり、いじめに関して取り扱っているものは今のところない。ケースの中でいじめが出てきて事件性がある場合は、警察にも相談する。他の関係機関とも連携しながら対応していく。センターがやることは、臨床心理士資格をもった相談員が、相談者とカウンセリングを行う。相談員からは、直接的な原因も当然ながら、その背景や成育歴、親子関係も一つの要因であると聞いている。いじめの要因はいろいろあると思うが、いじめる側の子どもの背景もよく見ていく必要がある。

#### <平塚警察署少年補導員連絡会>

補導員は46名おり、各中学校区15区に2から3名配置されている。基本的には、少年の非行防止に取り組んでいる。コロナを通じて子どもたちの環境が劇的に変わってきた。非行している少年たちと接する中で、子ども同士のコミュニケーションでのトラブル、子どもが先生に理解してもらえないという訴え、子どもと保護者とがうまくいかない訴えなどがあり、夜にバイクに乗り彷徨うこともある。経済的に厳しい子どもは高額バイトをする現状もある。学校に行かなくなると、他市町村の子とSNSを通じてつながり、情報交換して集まっている。そこで、昼夜逆転でゲーム依存になっている子どもを題材にDVDを作成した。次に、LINE等のSNSトラブルのDVDを作成した。さらに、小学校の低学年の子どもたちも、なかなか学校で落ち着かない、あいさつができないなど、人とのコミュニケーションが難しいということで、「やっていいことわるいこと」というDVDを作成した。コミュニケーションが取れるようになれば、学校が楽しくなり友達と会うのが楽しくなり家にいるのが楽しくなるという環境づくりをしていく。子どもが非行に走らないようにするのが補導員の仕事だと思っている。私たちは見回り活動で、子どもたちの話を聞くということを大事にしている。

#### <平塚市PTA連絡協議会>

市P連としては特に報告することはない。私が所属するPTAでは、例年の取組として、夏休み、冬休みに子ども会と協力して夜間の見回り活動に取り組んでいる。今年度の報告では、大きな事案は報告されなかった。引き続き地域として連携した取組を続けていきたい。その中で2点問題がある。1点は、問題行動の広域化に対して学区内のコミュニティーでは対応できていないところである。もう1点は、他校のPTAとの意見交換を行った際、それぞれの取組に、ばらつきややり方の違いがあるところである。子ども会の人数が少なくなってきて子ども会が成立しなくなっている地域が出てきている。実際、子ども会を持たない校区もある。保護者や地域が学校外での子どもたちを見守る活動について、コミュニティーづくりも難しくなっている。コロナ禍での休止の間にそういった大きな変化が生じたと感じている。保護者や地域の協力体制の重要性が言われているが、PTAとしてもどのように構築していくかが難しいという話題が出ていた。

#### <こども家庭課>

いじめ問題に関連したところで虐待の対応をしている。家庭内の状況によっては、いじめに発展するということがあると思うので、連携してやっていきたい。心配な家庭があったり、最近様子がおかしい家庭があったりした場合には、一度こども家庭課にも相談してほしい。虐待等では、連携していきたい。

#### <青少年課青少年相談室>

青少年相談室は、青少年相談とヤングテレホンを受け付けている。青少年相談は6～19歳の青少年とその家族で電話相談と来室相談を行っている。ヤングテレホンは6～19歳の本人相談と電話やメール、手紙で相談を受けている。いずれも学校生活、家族関係、不登校、対人関係、不良交遊等様々な内容で相談を受け付けている。いじめ相談があった場合は、必要に応じて関係機関と連携して問題解決を目指していく。

#### <子ども教育相談センター>

教育、福祉、心理など専門的な視点でいじめ問題に取り組んでいる。ケースについて適切に見立て協働し、教育指導課とも連携しながら課題解決に向けた支援を行っている。また、今年度、県教委では、いじめや不登校、子どもの抱える困難を確実にキャッチし早期発見・早期対応するために、かながわ子どもサポートドックを推進している。子どもサポートドックでは、児童生徒が記入したいじめアンケートや生活アンケートと複数の教職員が児童生徒の抱える困難の気付きを記入したスクリーニングシートをもとに、スクリーニング会議で情報を共有し今後の支援の方向性を暫定的に決定している。その後、必要に応じて校内支援会議やケース会議等を行い、外部機関へのアウトリーチにつなげていく。平塚市でも県の子どもサポートドックを参考に、平塚市「子どもサポートドック」として10月に各学校に依頼した。各学校ですで行われている支援体制に合わせて実施していただいているところだが、困難を抱えながらも支援につながっていない児童生徒を早期に把握し適切な支援につなげていくことが期待される。子ども教育相談センターとしても引き続き学校を支援していきたいと考えている。

#### 質疑

特になし

#### (4) その他

<事務局>

令和6年度の第1回平塚市いじめ問題対策連絡協議会は、5月頃の開催を予定している。

#### 4 閉 会